

東三河振興ビジョン【主要プロジェクト推進プラン】「人が輝き活躍する東三河」の実現の概要

I【策定方針】

- <位置付け> 県、市町村、東三河広域連合、経済関係団体、観光関係団体、大学、民間事業者、NPO等が連携・協働して展開する実施計画。
- <策定主体> 東三河ビジョン協議会（県、東三河の8市町村、東三河広域連合、経済関係団体、大学等で構成）
- <計画期間> 平成30年度から平成32年度までの3年間

II【現状と課題】

○現状（東三河における人の流れの特徴）

- ①転出超過が拡大傾向にある。
- ②20代の若者の転出超過が顕著であり、特に20歳～24歳女性の転出超過が常態化している。
- ③東京圏、名古屋、西三河の順で転出超過が多い。
- ④女性の県内の転出先については、20代前半は名古屋、20代後半は西三河が最も多い。
- ⑤県内他地域に先行して高齢化が進行しており、今後もこの状況が続く。

○課題

- ・東三河の女性の有業者率は県内他地域を上回っているものの、出産・育児などの制約により、35歳～44歳の年齢層でキャリアを中断するケースが多い。この年齢層の女性の無業者のうち、6割程度が求職を希望していることから、就労を望む女性が働き続けられる環境づくりが必要である。
- ・6割を超える高齢者が社会のために役立ちたいと思っており、体力的に元気な高齢者も増えている。一方で、生きがいを感じている高齢者は減少傾向にある。高齢者が活躍できる場の拡大と多様化が求められている。
- ・就業先の選定において、給料・待遇、職場の雰囲気、仕事の魅力等を重視する若者が多い。一方、出身地周辺で働きたい、暮らしたいと希望する若者も多いため、地元企業に関する積極的な情報発信が必要である。

III【目標】

上記の課題認識のもと、次の4つの数値目標を設定

目標1 東三河の就職件数に占める女性の割合

<現状> (H28年度) 52% 2%増加 <目標> (H32年度) 54%

目標2 東三河の就職件数に占める高齢者（65歳以上）の割合

<現状> (H28年度) 5% 2%増加 <目標> (H32年度) 7%

目標3 東三河のシルバー人材センターの登録者数

<現状> (H28年度) 4,300人 約7%増加 <目標> (H32年度) 4,600人

目標4 東三河4大学の学生の東三河の企業に対する認知度^{※1}

<現状> — %^{※2} <目標> (H32年度) 50%

※1 東三河の地元企業を1社以上知っている学生の割合 ※2 平成30年度にアンケートを行い把握（参考値27%。13頁 図19参照）

IV【2つの方針と4つの主な取組】

1 誰もが能力を最大限に発揮できる環境づくりの推進

(1) 女性が働きやすい環境づくり

- ①女性の活躍に向けた気運の醸成
- ②ワーク・ライフ・バランスの推進
- ③女性のキャリア形成への支援
- ④就業・就農・起業への支援
- ⑤子育て・育児の環境のさらなる充実

(2) 高齢者の活躍

- ①働くことを希望する高齢者の就業促進
- ②高齢者が地域で働ける場や社会の支え手として活躍ができる場の拡大
- ③新たなキャリアの形成に向けて学ぶ機会の提供
- ④農業等の分野において高齢者の活躍に向けた支援

2 人材の育成・確保

(1) 小学生・中学生・高校生・大学生を対象とする地域教育・キャリア教育の推進

- ①キャリア教育・地域教育の充実
- ②若者が活躍できる風土づくり
- ③グローバル人材の育成

(2) U I J ターン等の推進

- ①若者と地元企業とのマッチング支援
- ②就業・就農・起業への支援
- ③東三河の暮らしやすさの見える化と地域内外への情報発信

V【推進体制等】

<推進体制>

○各主体がそれぞれの取組を着実に推進

<推進プランの進捗状況の把握及び見直し>

- 県、市町村、及び東三河広域連合が関係団体と連携・協力しながら、毎年度、進捗状況の把握及び評価を実施し、東三河ビジョン協議会へ報告
- 東三河ビジョン協議会において、社会経済環境の変化を踏まえて、随時ローリングを行い柔軟に見直し

VI【平成29年度先導事業】

1 東三河魅力発信事業（愛知県事業）

- ・SNSを活用し、「東三河の暮らしやすさ」を地域内外に発信。

2 奥三河魅力発見プログラム（愛知県事業）

- ・地元を離れる前に地域の良さを改めて知ることにより将来のUターンに結び付けるバスツアーを実施。

3 小中高特連携事業（愛知県事業）

- ・地域が一体となって連携教育を充実・発展させることによって、魅力ある学校づくり・教育を実践し、東三河地域での若年層の定着を図る。

4 学生と企業の担当者が気軽に対話できるカフェ形式の交流会開催（東三河広域連合等）

- ・カフェのようなリラックスした雰囲気の中、飲み物を片手に少人数でテーブルを囲み、学生と企業の担当者が気軽に交流できる「まじカフェ」、「あうカフェ」を開催。